

浜田市地域協議会合同会議 委員意見要旨

〈発言順〉

No.	内容
1	<p>金城自治区地域協議会の意見としては、資料館の整備は必要だと考えるが、財政的な問題があり、時期尚早で反対である。ライフライン整備や福祉の充実等、市民生活に支障を来たさないように優先順位を決めて検討すべきである。また、整備目的に「ふるさと郷育」とあるが、地域には地域で行うふるさと郷育がある。十分な調査をした後に次の段階に進むべきである。</p>
2	<p>行革(公共施設の再配置計画)対象となっている施設であっても地域にとっては必要なものがある。そのことと新たに資料館整備がされることをどう理解したらよいか。施設の必要性は地域によって異なるが、今後の検討において、そのことも考えてほしい。</p>
3	<p>総合振興計画や中期財政計画等には、(仮称)歴史神楽資料館として、名称に「神楽」が使われてきた。検討会では、多目的ホールを整備しない案の支持が多く、歴史資料の展示、保存が主体とのことだが、名称に「神楽」は入れないか。</p> <p>議会の賛否は大きく分かれていると聞くが、現時点で一定の方向性が見えたと考えているか。</p> <p>建設位置については、津波浸水の予測が 50cm で本当に大丈夫かと疑問である。検討会ではどのような論議がされたか。</p> <p>既存資料館を統廃合して新たに整備するとのことだが、これまで市からの指定管理等を受けてきた団体等に対し、意見聴取したか。</p> <p>歴史文化の資料を保存、展示して市民や観光客の交流拠点を整備することは、非常に大切だと理解するが、市にとって資料館整備以上に急を要する事業がある。都市基盤整備、下排水処理の事業が県内他市と比べて、特に市街地で遅れている。大きな予算組みをする場合は、同時に長期の計画を示す必要がある。</p>
4	<p>構想自体は非常に素晴らしいが、拠点を 1 か所にして、それがふるさと郷育につながるかは疑問である。</p> <p>市の喫緊の課題は人口減少であり、子育てしやすい環境整備をするとの説明があったが、そこにもっと力を入れるべきである。地域で働ける、子育てできる環境を作る必要がある。中期財政計画では、10 年間の実質単年度収支が累積 1 億円の黒字とあるが、本当に実現できるか疑問である。</p>

	<p>公共施設の再配置計画では、統廃合施設が示されているが、残存施設の維持管理費は中期財政計画に反映されているか。財政面で楽観視するのは甘い。やらなければならない事業はたくさんあり、喫緊の課題を解決する必要があり、そういう部分にお金を使うべきである。</p>
5	<p>公共施設の再配置計画では、旭町は生活センター(集会施設)の廃止が打ち出された。今まで活用していた施設をいきなり廃止と打ち出すほどの理由があるとは思えない。一方、資料館は新設とは理解できない。</p> <p>資料館整備が不要とまでは言わないが、今は不急なものに手をかけるタイミングか。郷土資料館がこのままで困窮状態に陥るのだろうか。それよりも、古い道路改良等のインフラ整備、医療支援、高齢者福祉、教育は充分だろうか。教育、医療、福祉等への支援が住みよいまち、住んで良かったまちづくりにつながるもので、定住促進につながる最たるものである。</p> <p>多目的ホール整備を中止したから、資料館は整備し、折り合いをつけるという声がある。必要な方針転換はすべきだが、妥協の修正、削除はいかなものか。一度、俎上に載せたものが駆け引き材料にされていないか。</p> <p>赤字だ、財政改革だと言いながら、我々末端に対する施策は異常に早いスピードで縮小に取り組んでいる。一方、資料館整備では高額を要し、国から借金をしないと愚かというような風潮が市にはあるか。</p>
6	<p>私は建築屋であり、御便殿には 50 年前の屋根替え時から 3 回の工事にいづれも携わった。貴重な文化遺産だと思っている。浜田には、これまで三階ホテル、松尾等、素晴らしい建造物がたくさんあったが、今となっては御便殿くらいしか残っていない。本当に貴重な財産なので、どういう形でも、改良するなり、補強するなり、いつまでも永く保存して活用してもらいたい。</p>
7	<p>当初の計画では「神楽」とあったが、急に「ふるさと郷育」というようになり、疑問である。学校へのアンケートは、当初と今回で、どう違うか。市は資料館を整備するため、お題目を作るために、「子どものため、教育のため」と言っているような気がする。ふるさとの歴史や風土は、全てその土地にあって、その景観の中で教育してこそ、本当のふるさと郷育だと思う。それを中心部に集めても意味がない。</p> <p>歴史文化資料を集めて展示することはよいことだが、やるべきことをやってからにすべきだ。平成 33 年頃にもう一度見直してほしい。公共施設等総合管理計画では、今後 40 年間の更新投資額はハコモノで年間約 27 億円、インフラで約 34 億円が必要らしいが、一方、将来の投資的経費は 11 億～13 億円と差があり、明らかにおかしい。これが計画と言えるか。</p>

	<p>ふるさと郷育は、旧那賀郡はしっかり行っているが、浜田では充分と言えない。これでは、資料館を整備しても活用されないのではないか。それよりもインフラ整備、環境、福祉等を充実させた方が市民のためになる。</p>
8	<p>世界こども美術館の活用を支持する。市からの説明で美術館では「展示面積の十分な確保が困難」とあるが、例えば、奇数月は美術館を中心に、偶数月は資料館という活用方法にすれば充分使える。いつも全部の資料を展示する必要はなく、本当に必要なものだけを常設すれば足りると思う。</p>
9	<p>資料館が必要だということは、皆さん異論はないが、どこに建てるか、財源はどうするかに異論があると思う。整備にふるさと寄附を活用する計画だが建設まで3年あるので、今後見込まれる額を含めると約10億円は充当できるのではないか。一般財源には手を付けないで実施することやふるさと寄附の用途は目的に合ったものであることを皆さんに理解してもらえてないのではないか。提案として、今後は資料館建設のための寄附を募ってはどうか。</p> <p>市の実質負担である8,400万円を使うことに問題があるならば、それも来年度のふるさと寄附を充当して、一般財源は一切持ち出ししないと明言すればよいのではないか。</p>
10	<p>世界こども美術館では、現在、石見神楽に関する展示が開催されることから、同館で十分に伝統文化・芸能に関する展示ができる。</p>